

— 発 行 者 —
福島県公立学校退職校長会
福島支部長 鈴木昭雄

第120号

— 編集広報部 —
— 題 字 —
高橋 藤園

絹のようになやかで輝く 子どもたちを育むために



川俣町教育委員会
教育長 佐久間 裕 晴

二年前のNHK連続テレビ小説「エール」で、裕一少年(古閑裕而)が、母親と二人で、母親の実家がある川俣町を訪ね、蔵屋敷が続く町並みと賑やかに人々が行き交う様子を圧倒される一場面が映し出されました。当時、輸出の花形商品であった羽二重などの絹織物産業で栄えた川俣町を象徴する場面だったと思います。現在は、輸入品などに押され、織物工場も少なくなりましたが、それでも世界一薄い絹製品の開発など新しい取り組みもしており、川俣町は今でも「絹の町川俣」なのです。

学校のあり方検討委員会」を設置し、町の教育改革の動きをスタートさせました。この委員会で大切にしたのは、学校の統廃合ありきの議論ではなく、これから川俣町はどのような保育・教育を目指していくのかという課題についての共通理解です。特に、多くの時間を掛けて検討したのが、川俣の教育「シルクプラン」構想です。プランの細部は、省かせていただきますが、この構想は、冒頭に述べさせていただいた「絹」のもつ魅力、しなやかで強靱。しかも繊細で光輝く美しさをもつ絹のイメージを、育むべき子どもの姿としました。そして、一人一人の育ちと学びを見取り、個の可能性を伸ばしていく、切れ目のない保育・教育の実現、すなわち〇才から中学校卒業まで、一貫した保育・教育を展開していくための構想です。その構想実現の

ために、委員会では、その後学校等の再編の是非や学びの環境整備などを議論していく二段構えで検討していきました。

令和元年、シルクプランの推進と小学校・幼稚園・保育園の再編等について委員会から答申を受け、町と教育委員会は、保育・教育の環境整備や時期の確定などの年次計画を立てて具体的な作業に着手しました。計画の進捗状況については、その都度、説明会やたより・町のホームページで、広く町民に情報提供をしていきました。

そして、今年四月、長い歴史を閉じた四つの小学校(福田・富田・飯坂・川俣南)の良き伝統を引き継ぎ、新生川俣小学校が、全校生三百五十一名十五学級で新たなスタートを切りました。遠距離の児童は、スクールバス通学ですが、日々の体力増進を考え、バスの乗降場所は、学校から離れた場所を確保し、そこから徒歩通学させることも理解していただきました。さて、新しい校歌の一部を紹介いたします。

こころのまゆが 命を育て
かえで てのひら ひらく
ほほえむ せなかに夕日
わたろう銀河 花塚山の

星を数えて 記憶のまちに
絹おりの音 虹のシルクを
胸に うたう かわまた

作詞は、詩人合亮一氏です。和合氏の母親は、川俣町出身で、幼い頃から、母の実家で過ごすことが多くありました。機織りの音が印象に残っていたそうで、シルクのイメージと子どもの姿を表現していただきました。先日、記念すべき第一回の運動会が行われました。新しい校歌を鼓笛演奏する誇らしげな子どもたちの姿は、特に印象的でした。校歌を口ずさむ、この子どもたちたちのために、教育委員会としてやるべきことはまだまだ山積してあります。



なお、来年四月には、幼稚園二園と保育園を閉園し、幼保連携型の「かわまた認定こども園」を開設する予定です。

「中学校の抱える課題」

福島地区中学校長会 会長 目黒 満
(福島市立信陵中学校 校長)

吾妻山の初冠雪が記録され、朝夕の冷え込みを感じる季節が来ました。数か月前の猛暑の中心では、顧問教師が熱中症指数計とにらめっこしながら、部活動に汗を流して懸命に取り組む生徒を指導している姿が見られていたのが遠い昔のように思えます。

さて、今、中学校の部活動では、少子化や多様化の進展による課題が生じています。例えば今年度の福島支部中体連新人大会の女子ソフトボール競技では、参加四チームあり、その中の一チームは四校による合同チームでした。また、柔道競技では、出場者数が少なく、トーナメントだと一時間ほどで全試合終了となるため、リーグ戦としました。他競技でも部員数不足により大会や練習等の面で支障をきたす部活動が増加しています。これは都市部も地方も同様で、全国的に部活動の持続可能性が危惧されています。

令和二年九月に、文部科学省とスポーツ庁等は「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革に ついて」事務連絡しました。部活動の意義の重要性と様々な課題、持続可能性と教師の負担軽減にむけた改革の必要性が示されました。改革の方向性として、①令和五年度から三年間を、運動部活動の段階的な地域移行の重点期間とすること。②合理的で効率的な部活動を推進することの二つが示されました。今年度になり、運動部活動・文化部活動の地域移行に関する検討会議からの提言が出され、今後の指導者や大会・コンクール等の在り方等も含めた環境整備等、改革の方向性が提言されました。提言を受け、今後の部活動の在り方についての議論や検討が進められています。

静岡県池上重弘教育長は、部活動は教師が生徒を多面的に見ることができるとの大切な場である。部活動を週四日にする、全国大会をやめる等の大改革が必要と述べています。青森大学の崎谷康文名誉教授は、競技スポーツ振興や芸術家の育成を中学校の部活動に担わせるのは適切でも合理的でもない。学校では全国大会を廃止し、勝抜き戦とせず勝敗にこだわることをやめる等の対策をあげています。

山形県では、来年度から段階的に休日部活動を行わないようにしていく方針が県の担当者から示されました。こうした議論や方向性がそのまますべての学校や市町村に当てはまるかどうかはそれぞれの検討課題となります。地域の実情に照らしながらも、子どもたちの居場所の確保とともに教育的にも技術的にも適切な指導者・組織が必要となります。

これまで学校は、保護者や地域、教委や各種団体等との関係性の中でその守備範囲を広げてきました。その結果、教員の多忙化は限界にきています。「部活父子・母子家庭」「部活離婚」等先生方の土日勤務の過酷さを揶揄した言葉もあり、やりきれない気持ちになります。来年度からの三年間、生徒の居場所を創りだし、同時に教員の負担軽減を図る部活動改革が具体化します。推進にあたっては、柔軟な発想で、部活動も含めた令和の日本型学校の具体像を社会全体で創造することが求められます。

諸先輩方からも、改革へ向けたご助言をお願いします。



「喜寿の今」

蓬萊丹治一夫

遙か遠い先のことかと思いましたが、いつの間にか喜寿祝いの写真をいただく年齢になってしまいました。この度は誠にありがとうございました。自分ではまだまだと思っているのですが写真を見てそれなりだと納得した次第です。

退職後、吾妻学習センターに三年間お世話になり、その後、母の介護を中心に過ごしておりましたが、見送った後、町会や神社の仕事を引き受けて七年になります。

コロナ禍三年、生活が大分変わりました。少しずつ回復しつつあるようですが、「さあ、大丈夫ですよ」となっても元のようにはやれないことが多くなっていることでしょう。



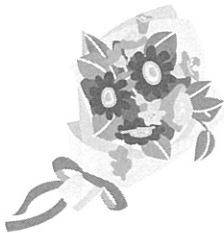
喜寿を迎えて

本年度喜寿祝い

会員の皆様

(昭和二十一年生まれ)

- 蓬 妻 吾 西 北 渡 吾 蓬
- 上 妻 妻 部 部 利 妻 妻 妻
- 川 藤 齋 本 多 熊 齋 藤 上 佐
- 光 文 和 武 正 田 文 光 藤
- 男 和 臣 二 臣 和 男 忠
- 雅 様 様 様 様 様 様 様 様
- 蓬 山 北 西 北 渡 吾 蓬
- 上 丹 部 部 部 利 妻 妻 妻
- A 治 黒 本 多 熊 齋 藤 上 佐
- 浦 一 澤 多 田 文 光 藤
- 勝 夫 美 武 正 和 男 忠
- 也 智 智 二 臣 和 男 忠
- 様 子 子 様 様 様 様 様 様



「感謝」

吾妻 A 川 上 光 男

この度は、退職校長会の皆様より喜寿の祝詞と記念品を頂き誠にありがとうございます。記念の写真を見るに付け「光陰矢の如し」、歳月の流れるのは如何に早いものか、我が半生を回顧するよい機会になりました。

さて、私は退職後に福島市の子ども施設「こむこむ館」に学習指導員として勤めさせていだきました。子どもの夢を育むというコンセプトのもとに造られた新しい施設であったのですが、始めは何をしてよいか分かりませんでした。しかし館長様や市の有能な職員、若いスタッフの方々と共に、子どもたちが科学的な事や音楽・美術的な事などに興味や関心を持ち、楽しく活動する場をどのように提供していくか、試行錯誤を繰り返しながら仕事をさせていただきました。学校教育とはまた違った面白さがあり有意義な時を過ごさせていただきました。

次には福島県教育委員会より委嘱を受けて理科支援員コーディネーターという仕事をさせ

ていただきました。理科教育充実や指導力の向上のために支援の要請があった小学校に支援員を探して配置をする仕事です。さいわい多くの方々を理解と協力を頂き何とか仕事を成し遂げることができました。その後は自らも理科支援員として、さらに県の理科教育のサポートティーチャーとして要請のあった幾つかの小学校に出向き、先生方の理科学習における指導法の相談や準備の手伝いをさせていただきました。そうこうしている内に私も七十五歳、体力的にも知力的に厳しくなってきましたので昨年で辞めることにいたしました。微力ではありましたが今までの実践を通して先生方が楽しい授業を推進してくれたり理科好き科学好きな子どもが一人でも増えてくれたりすれば、それは大変幸せな事であります。

終わりになりますがコロナ禍の収束は未だに見えておりません。マスクを外して以前のよう



喜寿を超えて

渡利 A 齋 藤 文 和

「喜寿を迎えられるので写真の撮影をお願いください」という案内状を頂いた時、誰かの間違ひではないかと思つた。それ程に喜寿は実感がないうままに迎えてしまった。

思えば父は病床にあつた末期、「七十歳までは生きたい」と口にしていたものであつたが、その父の思いを七歳も超えて生きています。つくづくすごいことだと思ふ。丈夫で長持ちする体に育ててくれた両親に感謝である。

最近サポテンを中心とした鉢物の世話と読書、囲碁対局で日を過ごしているが、サポテンが増えすぎて置き場がない。特に冬場は外には置けないので温室にぎゅうぎゅう詰め。サポテンが話せたら「勝手に増やしておいて無責任ですよ」と言つておいて無責任である。でも「殺るような待遇である。でも「殺

処分よりはいいだろう」と話しかけながら詰め込んでいる。サポテンは兄と一緒に始めた趣味で中学時代からなのでやめられない。「興味のある若い人がいたら譲つてもいいかな」と少し

思うようになった。次に、読書は溜めこんで積ん読となつていた書籍を今更ながら読んでいく。しかしすぐに睡魔との闘いになつてしまう。それでも斜め読みで新旧の本を比べることで取り上げられている事例が戦前の本のままであつたり式の表現が時代と共に変遷してきたりする様が見えてきて新たな楽しみを覚えていく。最後に囲碁であるが、対局中に現れる同じような場面で同じような間違いを繰り返す、これが年を取るということかと実感させられている。

それでも買つたり負けたりで飽きることは無く、対局の合間の語らいから生きる知恵も学べ、やめられない。

周囲におられる若々しい先輩方を見ると好奇心が強く社交的であり行動的である。「若さを保つ秘訣は知的好奇心に満ちた生活をする事である」という言葉を残した知の巨人を思い出す。このような方と並び立とうとは思わないが(できるはずもない)、時には苦手なことにも挑み、マンネリ化を防ぐつもりで進んでいこうと思つている。

ふれあい広場

— 方部会員紹介 —

「図書館にて」

宮代 佐藤 洋一

先日、久しぶりに電車に乗った。座席に着くやいなやほとんどの乗客はスマホを取り出し画面に集中している。つい最近までは、文庫本を読んでいる姿が見られたが今は皆無である。

私は現在、伊達市立図書館にお世話になっている。

○子どもへの読書推進

○寄贈本の整理

○返却本の修繕・補強等が主な仕事である。

これまで、学校の仕事中心の私にはすべてが新鮮であった。まずは、返却された本を書棚に戻すため、本館にある約十一万冊の本がどこにあるかを知ることから始まる。次に返却された本の修繕と補強である。ほとんどは、もとのままの状態で返ってくるが、中にはコーヒのシミ・破損・落書き・煙草の臭い

絵本の読み聞かせや紙芝居も行っている。子ども達は真剣な眼差しで聞き入っている。幼児期のこのような体験が本との出会いのきっかけになってくれればと願っている。学校でも朝の読書タイムと称し全校一斉に取り組んでいたことを思い出す。昨今では、児童生徒一人一人にタブレットが配付されている。いつでもどこからでも利用できる事をキヤッチフレーズに、図書館と連動して利用拡大を図っている。電子書籍の利点は、文字の拡大や音声・注釈が瞬時にできることや図書館に行かなくても本の貸し借りができることである。ただ、紙の本のようにページをめくるわくわく感や文字と挿絵の調和といったようなことは持ち合わせていない。いずれにせよ、今後電子書籍と紙の本はお互いのよさを生かしながら共存していかねればならないと思う。

図書館に勤めてからいろいろな作家を知ることができた。ある時三十代に読んだ山本周五郎の本を見つけて読んでみた。驚いたのは全く逆の感想を持った

要望活動を行いました

鈴木支部長・持地事務局長が

十月三日に川俣町教育委員会、十月五日に福島市教育委員会を訪問し、要望書を提出するとともに教育長との懇談を行いました。

一 当地区学校教育の復興・創生・充実のため、国及び県との連携の下、将来を見据え、教育諸条件のさらなる整備・充実に努めていただきたい。

二 年金生活者や高齢者の生活の保障・安定を図るとともに、

からだ。それ以来自宅にある本をもう一度読み返してみることを目標にしている。それにしてももっと本を読んでいたらなあ、と本棚を見つめ感じる。さらに大分偏った本があることにも気づかされた。残された時間、新しいジャンルにも挑戦してみようと思う。最近興味があるのは世界の昔話である。特にロシアや中央アジアのものは権力に対しての皮肉をさりげなく表現している。その国の歴史が伺える。

一度近くの図書館に足を運び新たな発見をしてみてもどうだろうか。

年金制度及び保険・医療・福祉等の充実、退職者の再任用や講師の登用等について関係機関に強く要望していただきたい。

三 児童生徒をはじめ学校、住民の安心・安全を担保するため、地域の特性を踏まえ、地球温暖化の影響による自然災害の激甚化や複合的な災害にも多層的に備えることができない実用的な対策を早急に講じていただきたい。

○川俣町教育長
統合して四月開校した「川俣小学校」は順調に運営されている。

・川俣南小学校校舎を利用して認定こども園の開園工事を行っている。

・山木屋中学校生徒が地域の特性を生かした活動に励んでいる。

○福島市教育長

就任早々の佐藤秀美教育長へ要望書を渡し、懇談することができた。

・市小学校陸上競技会を、保護者の入場応援を認めた形で実施することができた。児童の運動を見てもらう機会が持てたことは喜ばしい。

事務局より

○十月二十四日、永倉彰郎先生宅を鈴木支部長・持地事務局長・山寺方部担当理事が訪問し、奥様に賀寿のお祝いをお届けしました。

○令和五年度の県大会は令和五年六月十四日(水)郡山市で、支部総会は今年同様の形態で四月二十一日(金)にアオウゼでの開催が計画されています。

編集後記

今年度の年金支給額は四月から○・四%の減額、十月からは七十五歳以上の医療費も所得額に応じて一割から二割への負担増になりました。

一方、今年に入ってから、ガソリンの上昇から始まってすべての物の値段が上昇しています。物価上昇に伴って年金も上昇すればいいのですが、マクロ経済スライドで物価の上昇率には及びません。年金生活者には厳しい年が続くそうです。

炬燵にあたって、福島のソウルフードの「いかにんじん」を食べる季節になりました。今年もカズノコが入っていますように！よき年をお迎えください。